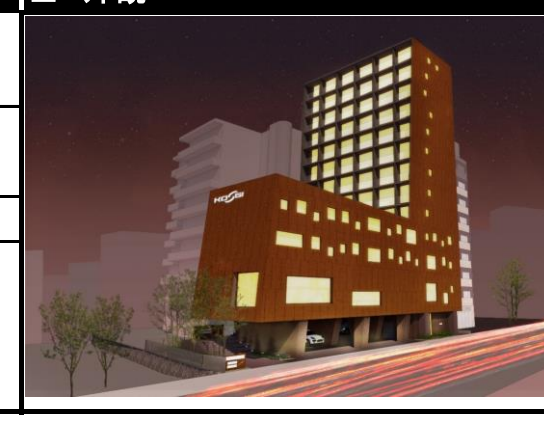
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	九品寺複合ビル　新築工事	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区九品寺一丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	79　人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760　時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月　　予定	評価の実施日	2020年4月22日
敷地面積	706 ㎡	作成者	橋本
建築面積	449 ㎡	確認日	
延床面積	2,954 ㎡	確認者	上村

■ 外観



ください。

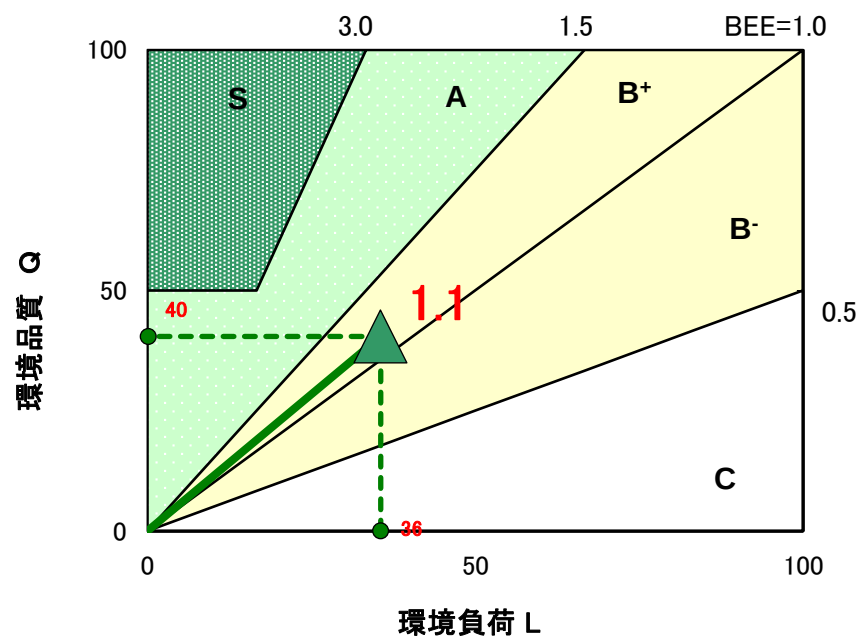
1　CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★★☆☆

BEE = 1.1

■BEE（環境効率）＝ Q（環境品質） / L（環境負荷）



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B−	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆☆

排出率
63%

2　熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
75

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	58.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	77.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.0

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

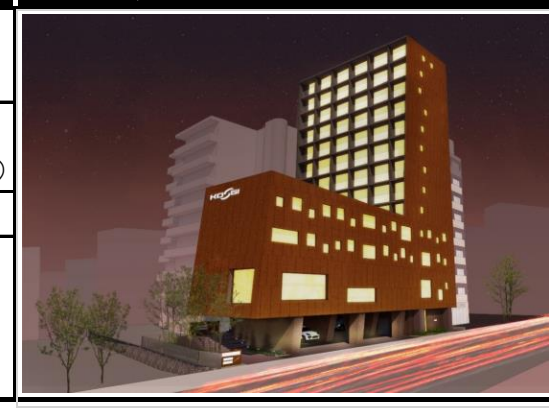
CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	九品寺複合ビル　新築工事	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区九品寺一丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	79 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月　予定	評価の実施日	2020年4月22日
敷地面積	706 ㎡	作成者	橋本
建築面積	449 ㎡	確認日	
延床面積	2,954 ㎡	確認者	上村

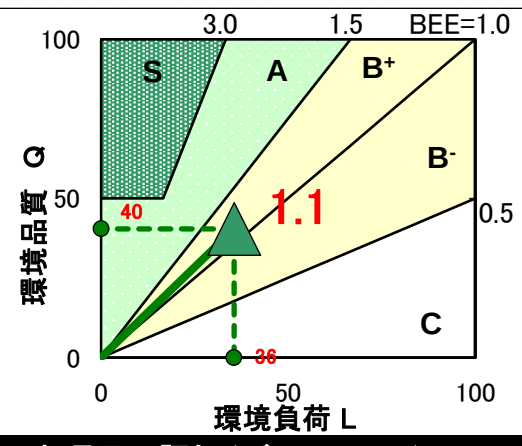
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート

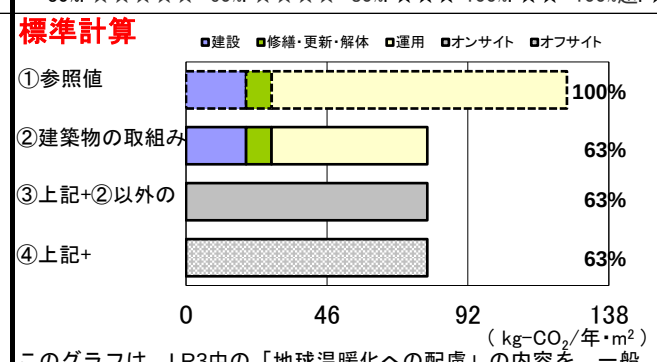
BEE =1.1

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



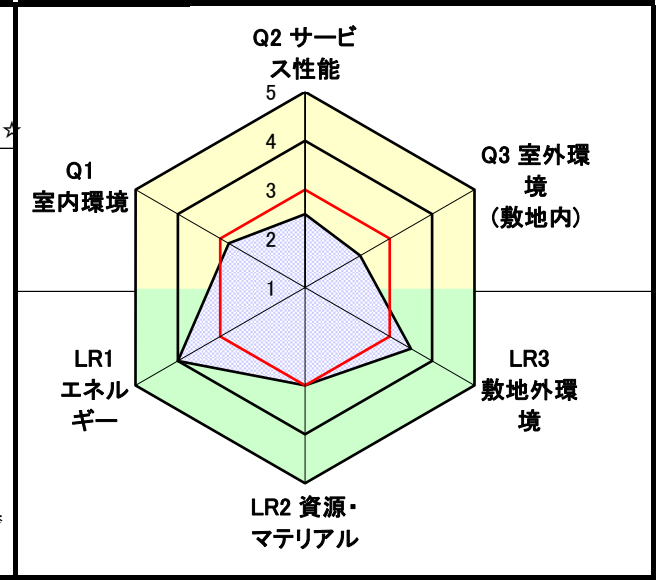
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

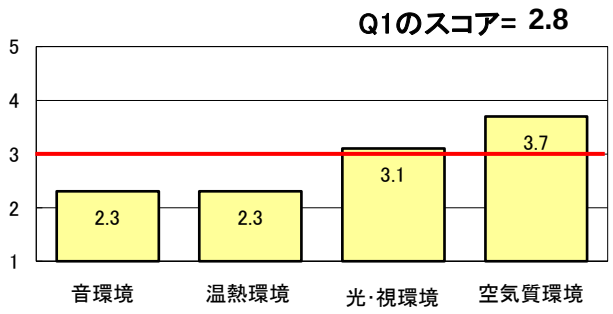
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



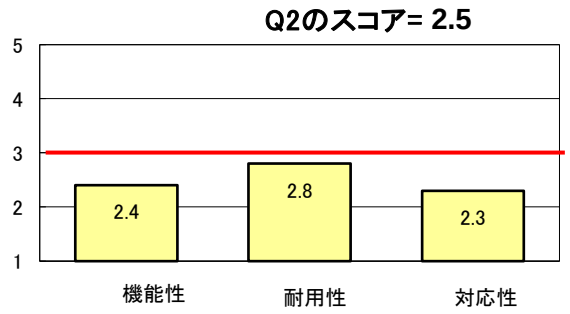
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.6

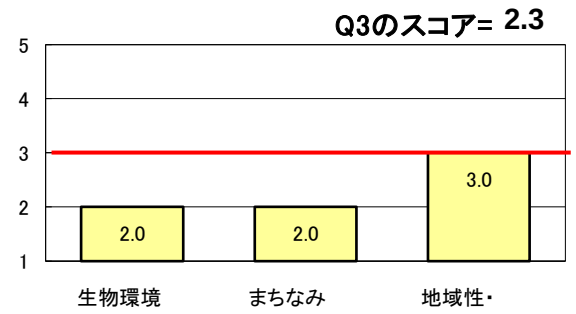
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.8



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.5

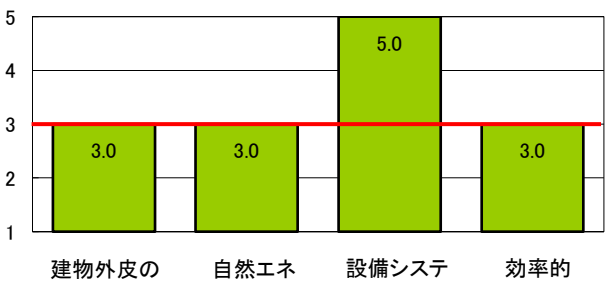


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.3

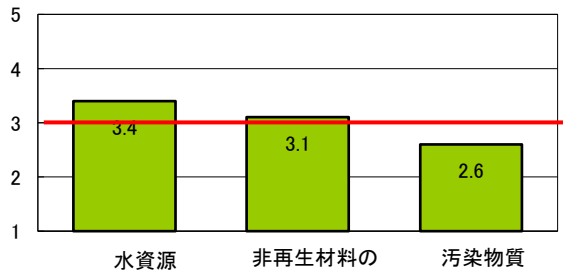


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.5

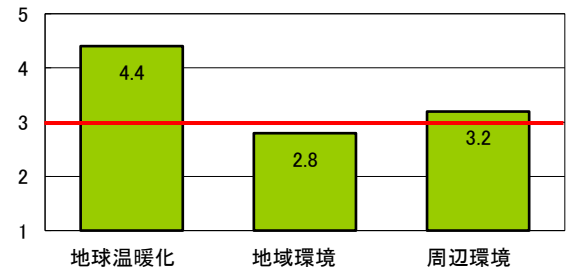
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 75

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 85.0

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 58.7

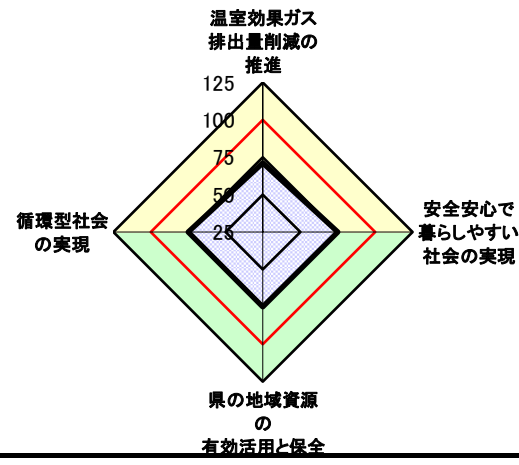
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 77.5

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 = 69.0

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
九品寺複合ビル　新築工事

■使用評価マニュアル　CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質						2.6
Q1　室内環境			0.40		-	2.8
1 音環境		2.0	0.15	2.5	1.00	2.3
1.1 室内騒音レベル	共用部(ｴﾝﾄﾗﾝｽ):50dB(A)　住居部(住戸):40dB(A)	3.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	1.0	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	2.5	1.00	2.3
2.1 室温制御		2.0	1.00	3.0	0.50	
1 室温		-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		2.0	1.00	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	2.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	2.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.1	1.00	3.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30	2.4	0.30	
1 昼光率	共用部(風除室)　昼光率:14.0 %　住居部(Type.F)　昼光率:1.3 %	5.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	共用部(風除室):庇　住居部(住戸):ｶｰﾃﾝ・庇(ﾊﾞﾙｺﾆｰ)	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	1.00	3.0	0.33	
2 自然換気性能	住居部(Type.F)　窓面積/床面積:0.241	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2　サービス性能		–	0.30	-	-	2.5
1 機能性		2.2	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種以上にB以上を使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.6	0.30	2.3	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり		-	-	1.6	0.50	
1 階高のゆとり		-	-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.6	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.5
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマ、節水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシャラン	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	軽鉄下地	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		2.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		2.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	ﾗｲﾌｻｲｸﾙCO2排出率：63 %	4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ﾁｪｯｸﾘｽﾄの項目の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

注）　設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
前面道路に面した１階外壁部は、ピロティーにし、抜けを作り視線の通る、圧迫感のない計画とした。
随所に緑地を配し、街並みへの潤いを生み出すよう考慮した。

Q1 室内環境

注）　「Q1　室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
居室同士の界壁はRC壁、またはTLD-56がとれる仕様にした。
使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

注）　「Q2　サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
将来の更新を想定し、全室ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽを採用。
外壁には、メンテナンスの手間がかかりにくいアルミパネルを使用。
ダクト・配管に長寿命材料を採用。

Q3 室外環境（敷地内）

注）　「Q3　室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
外壁材（アルミパネル焼付塗装）の彩度を落したﾃﾞｻﾞｲﾝとし、周囲への太陽光の反射やｸﾞﾚｱの軽減を図る。
敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

注）　「LR1　エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
日射遮蔽製を図り、断熱性能を高めるよう、ﾃﾗｽ（ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ）奥行を広く計画した。
窓は縦長のハイサイドライトを確保できる形状とし、採光利用に努めた。

LR2 資源・マテリアル

注）　「LR2　資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
限りある資源を有効に利用する。ﾊﾛﾝ消化剤を使用しない。
住戸内部の界壁はなるべく、乾式間仕切りとし、再利用可能性を向上している。
断熱材は全てノンフロンとした。
節水型器具の採用。

LR3 敷地外環境

注）　「LR3　敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
高さの低い庭園灯を使用し、隣地への光害に配慮した外灯計画とした。

その他

注）　上記の６つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてＣＡＳＢＥＥで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	九品寺複合ビル　新築工事

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	75
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69	0.20	13.80
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数